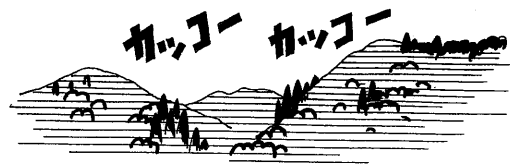


初夏の博物館



楽しかった朝 (平成3年5月18日)

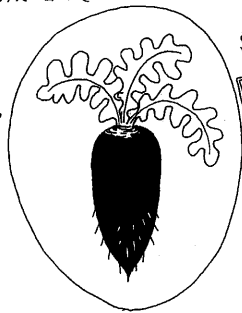


朝早く鳳来町門谷、真増寺うら山でカッコウが鳴きました。ここでは初めての出来事です。この珍しい鳥の鳴き声をみんなが聞いたようです。

三粒の大根のたね

鳳来町からドイツの国(旧西ドイツ)へ行って生活している人がいます。その人から真黒な肌をした大根の種類のたねをもらいました。昨年の秋、館長が植木鉢に播種しましたが、発芽したのは三粒だけ... 館長が熱心に栽培しました。春に花が咲き、結実してたねがとれそうです。

秋の頃には黒大根を栽培してみんなをおどろかせたいと思います。



はくぶつかんだより 1991.5 No.11

ヒメハルゼミ鳴く(平成3年5月17日)

昔は、鳳来寺山でも古いシイ、カシの樹木で初夏の季節に先かけてギョー・ギョー キリリオ・キリリオ・ギョーとよく鳴いたものです。最近では聞かなくなりましたが、めずらしく博物館の近くの山で数回鳴いてどこかへ行っていました。

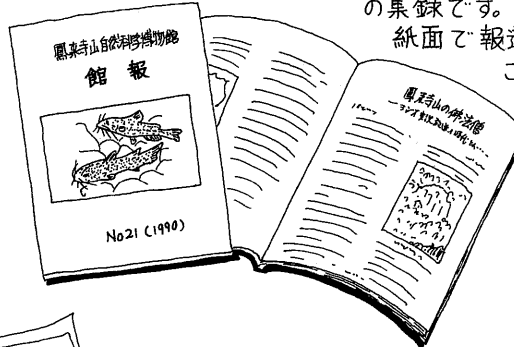


ヒメハルゼミ(セミ科)
体長 オス24mm 雌28mm
メス 23mm 雌25mm

仏法僧館報(第21号)

(平成3年3月31日...発行)

博物館では、毎年1冊館報を発行しています。その中で最新号は21号です。全文B5版105頁、半分の頁に館長が「鳳来寺山の仏法僧ラジオ放送時代の人をめぐって」と題して書きました。館長が16年間に亘って調査した汗の集録です。各社の新聞社が新聞紙面で報道しました。



このようにみんなに知られおかげで残部が少なくなりました。

オオコリハズクの話(平成3年5月6日)

オオコリハズクが鳳来町愛郷地内で保護されました。これでここでは2回と同じことがくりかえされました。発見者は、同地畜産経営を行っている久保田和男さんです。たまたま近くを流れている寒狭川に逃げて、水に流され死んでしまいました。



年令を推定してみると幼鳥(3歳)です。かわいそうに思いましたが、これこの鳥の運命です。みんなで葬ってやりました。

...鳳来寺山自然科学博物館...

ミツバチの巣分け(平成3年5月17日)

巣分けとは、ミツバチの仲間がふえて巣の中がせまくなると、ミツバチの群が、2つか、3つの群に分れることです。鳳来寺山3くに住む中根福雄さんが畑を昼間耕作をしていると、頭の上を海なりのような羽音をたててミツバチが飛んでいくのをみかけました。

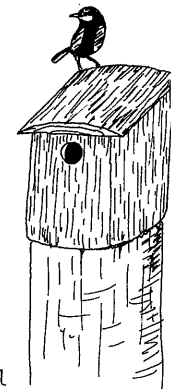


これは雲竜荘のうらがわの松の大木に住んでいたミツバチで、ここから1,000mと離れた平沢昇さん宅の土蔵の石垣の穴の中に移動中の出来事です。



新居でヒナ誕生(平成3年5月10日)

博物館主催「鳥の巣箱づくり」に参加した荒川友里さんが作った巣箱にヤマカラが卵を産み、ヒナをかえして育てました。全部で4羽です。この明るいニュースは春の話題となって広がりました。



フタバアオイ(ウマリスズクサ科)

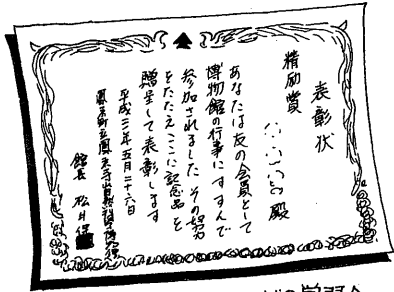
この植物はギョウジョウ(アゲハチョウ科)の食草です。チョウの保護のために大切にしなければなりません。博物館ではいっしょにふやしています。



けんめい

モリアオガエルの季節

館長のあいさつ



『学習会に参加しても学校の成績が特別あがることはないと思います。日曜日の一、博物館の学習会で自然との出会いを体験する。はじめて自分の目で「自然の発見をしたときの感動と喜び」は、人の心を豊かに育てます。その豊かな心こそ、人生の財産でもあるのです。』

どの学習会にも参加された人には、その努力をたたえ、表彰状と賞品がおくられました。

- 足木宏行(鳳来町) 丸山憲和(鳳来町)
- 丸山泰恵(鳳来町) 長嶋敦子(鳳来町)
- 長嶋智恵子(鳳来町) 竹之内 茜(豊橋市)
- 竹之内 栄(豊橋市) 竹之内昭夫(豊橋市)
- 長嶋 祐子(鳳来町) 藤原三奈(新城市)



川原の小石を学ぶ

— 平成3年6月9日 海老川 —

どの小石にもそれぞれ名前があります。また、小石はどのようにしてこの世に生まれたのか・・・？

まったくことばを知らない小石にすぎませんが、昔の海の時代や、火山の時代のできごとを教えてくださいました。



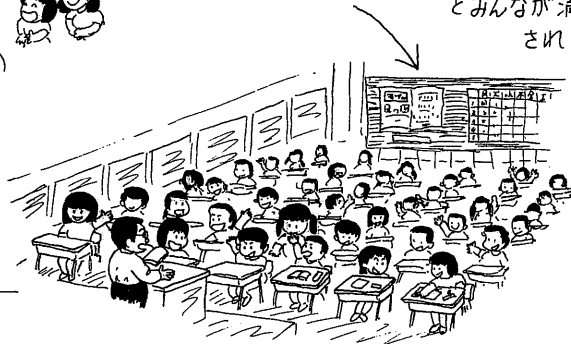
自然の宝庫に

目を輝かせて

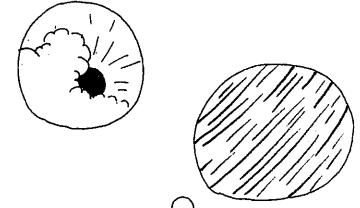
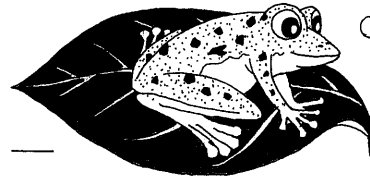
— 平成3年6月15日 中日新聞夕刊 —

鳳来寺山で行った「鳳来寺山の生きものを学ぶ会」(5月26日)が中日新聞の夕刊1ページ分に紹介されました。その新聞が鳳来中部小学校の教室に掲示されています。

「参加してよかったなあ…」とみんなが満足されたと思います。



モリアオガエルの会話



夕方、木の葉の上にモリアオガエルが向かい合っていました。気象台では、梅雨は6月2日に入ると知らせましたが、本当のことはカエルが一番知っているようです。

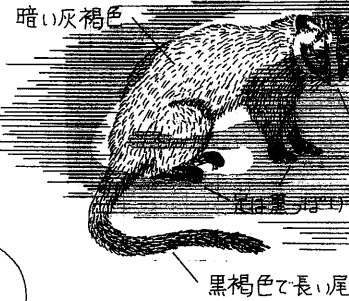
モリアオガエルにとっては大雨よりも、雨が降らないのが一番心配です...

こんな天気の内配をしていたのかも知れません。



モリアオガエルの卵塊が消える？

(平成3年6月5日)



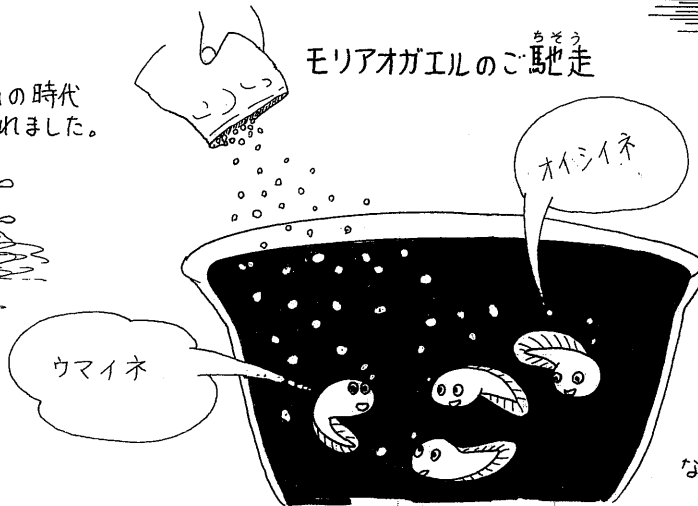
暗い灰褐色

顔の中央に白い縦筋

黒褐色で長い尾

ハクビシン(ジャコウネコ科)は東南アジア原産の帰化動物で、中形の獣です。鳳来寺山のまわりで見られるようになりました。木登りが上手で、果物や昆虫などを餌にしています。博物館のモリアオガエル観察池のナンテンに産卵した卵塊を夜に出没して食べてしまいました。これは初めてのできごとです。

モリアオガエルのご飯



オタマジャクシの間だけ金魚のエサで飼育できます。自然の中ではエサも少なく、発育不良のものが多い。ここでは栄養過剰となり、やや肥満になります。

ホリバシクナゲの蒴果

この季節に新芽がでそります。花が散ったあとに蒴果をふくらませて種子を結実させようとしています。これはつみとってしまわないと弱ってしまいます。これと自然保護のみとつです。



人と自然と博物館

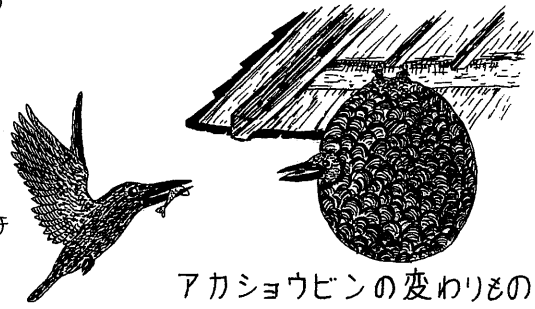
「ほくぶつかんだより」1991.8 No.13



CBCテレビ放送

(平成3年7月27日午前7時~15分)

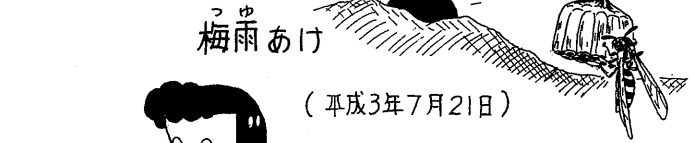
テレビ番組「ジャスト・ナウ・アゲ」時の話題で「夏の特別展と鳳来寺山」が放映されました。館長が「博物館を先に見学して予備知識を得てから鳳来寺山へ登山するのが一番楽しく、ためになります。」と説明しました。



アカショウビンの変わりもの

(平成3年6月24日、鳳来町四谷 小山舜二からの報告)

この鳥は口は少し足も体も赤い比較的小さな、美しい鳥です。普通は、斜面に孔をあけて、ひなを育てますが、この親鳥は、不用となったキロスズバリの巣を利用してひなを育てました。これは異常です。野鳥の歴史の中に「変わりもの」の記録を残すことになるでしょう。(平成3年8月4日(日) 参加者数50名)



梅雨あけ

(平成3年7月21日)

梅雨あけを一番待っていたのはハチたちです。雨で羽がぬれると、エサをとれないため、梅雨が長びくと自分の子供(幼虫)を食べることがあります。空はすっかり青く晴れあがり、ハチたちの行動は特別楽しそうでした。

親子で地形と地質を学ぶ

参加者数50名

全国科学博物館協議会総会

(平成3年7月26日)

一年に1回、国立科学博物館(東京都上野)に全国の科学博物館の館長、副館長が集まります。館長が出席し、国立科学博物館長始め、各地の館長と交流を深めました。



夏の植物を学ぶ

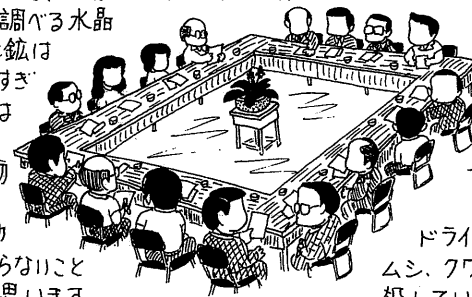
(平成3年7月14日(日) 参加者数58名)

学習テーマは「夏をいろいろいろいろな植物を観察しよう」です。博物館のまわりだけでも、ヤマカンゾウ、ヤマシヨウカ、ナンキンハゼ、ジャヒゲ、などが観察されました。

学習テーマは「きれいな鉱物を見つけて調べよう」です。この学習会では、マンガン鉱、水晶が採集できました。専門の図鑑で調べる水晶

専門の図鑑で調べる水晶

は白っぽい塊り、マンガン鉱は黒っぽい塊を見るにすぎませんが、実物は美しく輝いています。実物ぬきでは本当の勉強にはならないことがわかったと思います。

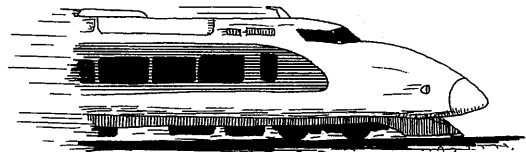


マムシの交通事故

(平成3年7月22日)

これは館長の朝の発見です。マムシが道路上で車にひかれて死体になっていました。

ドライバーは気づかなくとも、カアトムシ、クワガタ、カエルなど、たくさん殺していることは確かです。このマムシの死がむだにならないことを願って、夏の特別展で紹介しました。



東海ラジオ放送

平成3年6月11日(火)

午前11時~15分

ラジオ番組に「犬飼直子のこんちには愛知です」があります。館長が夏の自然と博物館活動にふれて話しました。これは生放送です。



ブッポウソウ新聞

(平成3年7月28日 中日新聞)

1頁全文がブッポウソウ(コリハズク)の記事で、鳳来寺山のコリハズク事情が紹介されました。「鳳来寺山にコリハズクを呼び戻そう」と館長が機会あるごとに地域住民のみなさんに訴えてきました。この新聞広告関係者に感謝します。

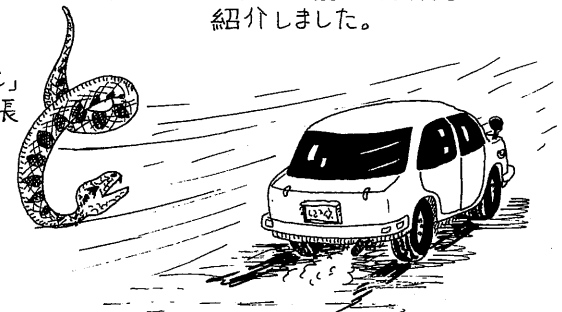


鳳来寺山自然科学博物館

博物館視察団来館(18名) 秋田県山本郡藤里町

(平成3年8月7日)

この町は「歩く体験博物館ゾーン」を作りたいたのことです。市川茂芳町長を先頭に秋田大学、秋田県庁の関係者で構成された視察団です。館長が「よい博物館づくりは人から…」と力を入れて説明しました。

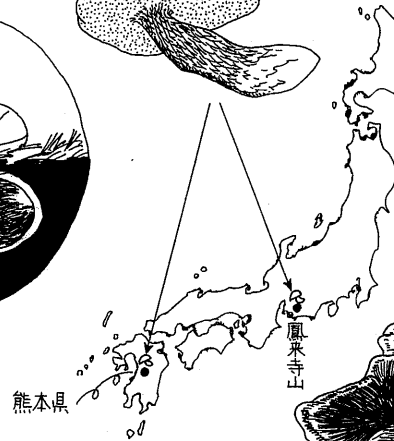
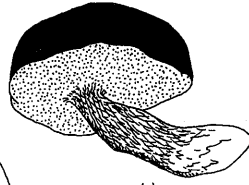


きのこの体験

森に生れたきのこに学ぶ

珍しいキノコニガイグチ (イグチ科)

平成2年秋のこと、鳳来寺山で発見されました。
この種類は日本では珍しい事例で、新聞やテレビにも紹介され大ニュースとなりました。
現在、博物館で液浸標本にして保存しています。
(平成2年10月11日 鳳来町門谷 足木 勇氏寄贈)



ヒラフスベの発見

平成3年9月29日

桃ノ久保林道(鳳来町玖老峠)沿いの腐った大木にヒラフスベ(タコウキン科)が発生しました。木に登ることは危険で、木を切って突き落としました。
コブ状でマンジュウ形の傘になっていて、表面は鮮黄色です。重さは980g……
この地方では新しい発見となりました。
(鳳来町玖老峠 吉村虎男氏報告)



カラストタケ

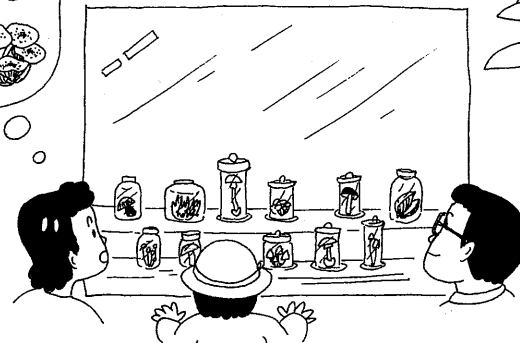
(イホタケ科)

雑木林の中で、からだ全体がまっ黒なカラストタケに出会ったことがあります。
臭い悪く感じられますが食べられます。この地方では発生数は少なく、実際に観察した人は少ないと思います。

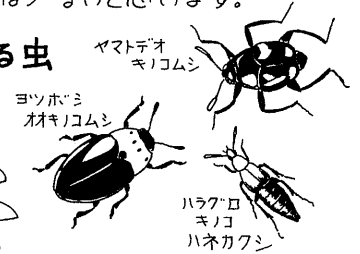
きのこの展示

博物館内には、この地方に見られる主なきのこが展示されています。

たくさんの種類の特徴をおぼえることも大切ですが、先に食べると中毒をおこす毒きのこを学んでほしいと思います。



きのこにくる虫



きのこの秘密

平成7年秋、野生きのこの調査中にある雑木林でジャカシメジ(キシメジ科)に出会いました。
重さをはかってみると950gもあります。
マツタケは香り、ジャカシメジは味を自慢する種類です。
他人からたずねられても教えられません。このようにみんなが秘密にしています。

みんなに踏まれたマツタケ

平成2年10月31日

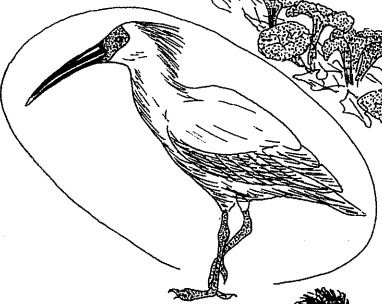
平成2年は「山豊作里不作」の年できのこ狩に来る人たちが大変にぎわいました。せっかく松林の中を歩いていてもマツタケの予備知識のない人ばかりでマツタケの上を歩くばかり……きのこは傷だらけになってしまいました。
(鳳来町玖老峠 安藤 オー氏報告)



トキイロラッパタケ

(アンズタケ科)

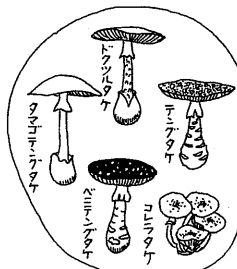
野鳥のトキは絶滅寸前です。心配に思います。
このトキの羽毛は美しい色ですが、この色によく似ているトキイロラッパタケに出会います。急な斜面に群生して、みごとです。



コウボウフデ

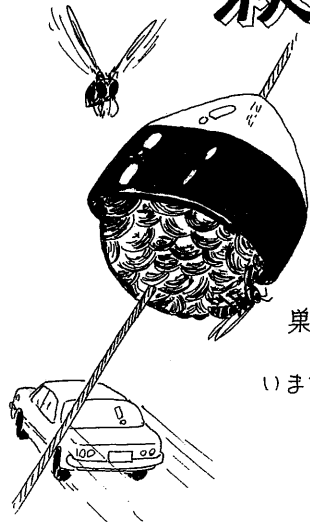
(コウボウフデ科)

落葉の中に生えているところを見ると、枯れ木が折れて地面に突きささっているようです。
傘のないおかしなきのこですが、土の中に入っていた柄の部分は灰白色であたかも筆のようです。



↑ 食べる危険なキノコ

秋の自然誌



静かな山里とハチの巣

(鳳来町池場10月23日)

電柱の支線を伝って登るハチ。防止用のカサにキイロスズメバチが巣をかけていました。

まったく道路ばたで車と走っています。また、いたずらする子供とないようで、ハチは無事に楽しいくらしをしていたことがわかります。

アユカケ(カジカ科)

曹川(寒狭川)から15年ほど前から絶滅した魚です。平成3年10月27日、鳳来町只持の広見ヤナで発見されました。この川の歴史に残る発見でみんなが驚き、感動しました。昔はたくさん生息していた…。別の名を



{体長 16.5cm}

はぐれ子猿

平成3年10月23日

この秋の宇連ダムは満水で気持ちが良い。このダム湖畔にはぐれ子猿が5月頃から出没しています。2才(推定)のメスです。なぜはぐれてしまったのかな…? 足のあたりが不自由なため、親にすてられたか。



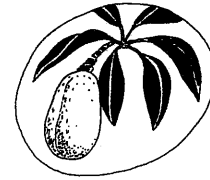
集団行動ができなかったか、そのどちらかです。

みんなにエサをもらって、暮していますが…これから先のことを思うと心配です。

ムベの実

平成3年10月24日

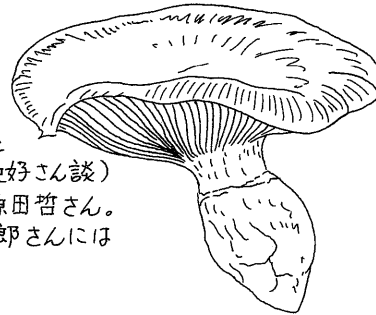
これは、きのこ採集中のできごとです。かみくだかれたピンク色の新鮮な果実が散らばっていました。調べてみるとムベ(アケビ科)で、暖かい地方の植物です。アケビによく似ていて、果実が割れずにそのままです。どうやら猿に発見されて食べられたようです。



短命だったムレオオイチョウタケ(キシメジ科)

平成3年10月7日

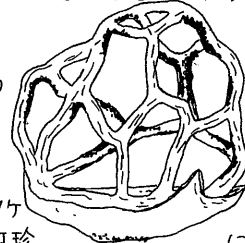
設楽町神田の佐々木稔さんがムレオオイチョウタケ1個を寄贈されました。カサの径31cm、柄の長さ15cm、重さ1.280gとある大きなきのこです。きのこ展でみんなに見てもらうと思いましたが、わずか2日間で腐り、展示できませんでした。



カゴタケ(アカカゴタケ科)

平成3年10月13日

きのこ学習会(参加者118名)で、友の会員の



竹之内苗さんが発見しました。図鑑では見えて、実物を見るのはこれが初めてです。博物館では、このきのこを液浸標本に作成して展示することにしました。

この菌の上にキツネタケができていました。これは珍しい発見で、新しい研究課題となりました。

—— 鳳来寺山自然科学博物館 ——

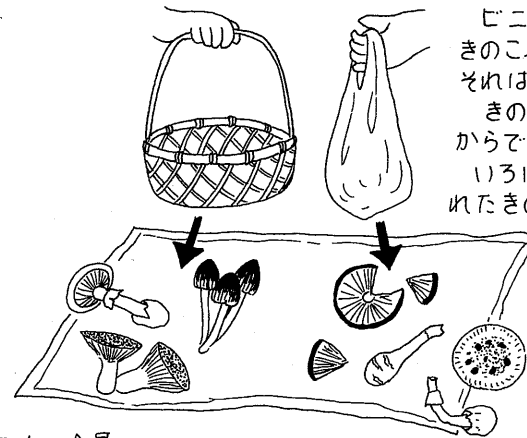
はくぶつかんだおり



ツクツクボウシ鳴く(鳳来町政老塾)

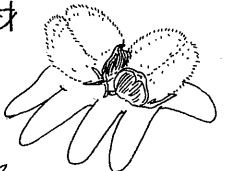
ツクツクボウシ(セミ科)の鳴き声が聞かれなくなると、夏が終って、初秋が始まるのが普通です。それが10月24日の午前10時頃、雑木林で鳴きました。林床できのこを取って、その上でセミが鳴く…。こんな自然体験は初めてです。

きのこ体験 - カゴとビニール袋

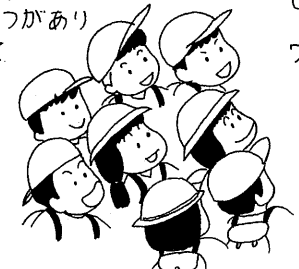


ビニール袋は便利な袋ですが、きのこ採集には、一番悪い袋です。それはなぜ…? きのこが目茶苦茶にこわれてしまうからです。いろいろな種類を調べるとき、こわれたきのこでは正しい名前がつけられません。山で採集したきのこを安全に持ち帰るには、カゴにかきります。

ワタの教材



平成3年10月31日、鳳来中部小学校5・6年生の見学がありました。この学校に博物館の会員がおおせ(い)います。見学が終って館長のあいさつがりましたが両手にワタの実をのせてみせました。実物のワタの実を見た人は少なかつたと思います。



ワタ(アオイ科)

6月4日播種

7
9
9
7
11
No
15





サル年（平成4年）

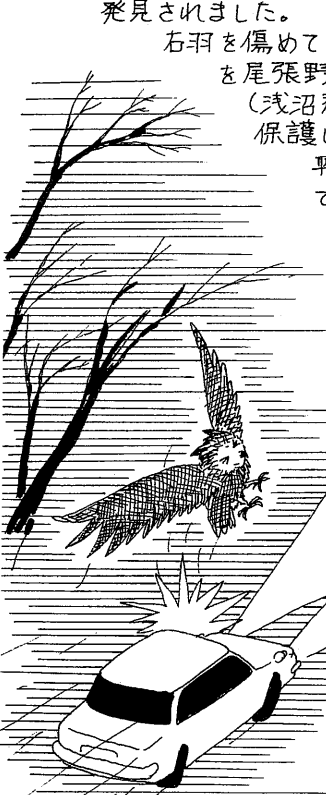
人も猿も新年の朝の喜びは同じです。今年と猿害問題で猿はみんなに嫌われそうです。一方的に猿だけ嫌うのは不公平です。豊かな自然を育て、猿も人も共存できる道をひらきたいものです。

冬のコリハズク

冬のコリハズクの行動はナゾにつつまれたままです。平成3年10月、尾張旭市で発見されました。

右羽を傷めて重傷のものを尾張野鳥の会会長（浅沼秀夫氏）が保護しました。

平成4年1月11日、博物館でこのコリハズクについて観察と記録をおこない、野鳥の会会長と館長が中心となり、情報交換をおこないました。



オオコリハズクの保護

国道257号線、鳳来町と引佐町の境界のあたりで道路にうすくまわっているところを見つけて保護されました。最初の発見者は澤上敬之（下吉田）さんです。

道路にいたのは通行中の自動車にぶつかってショックを受けたためと思います。

その後、博物館で引きつづいて保護しています。



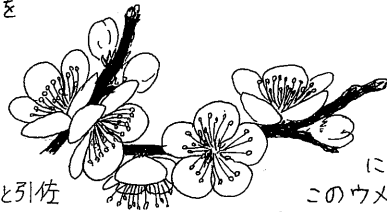
実物こそ師

—空白のない自然をとおして—

「教育愛知」（愛知県教育委員会発行）に「この人に聞く」という頁があります。

この頁は、その仕事と人生についてお話を聞くインタビュー記事です。

平成4年2月号は館長の頁です。

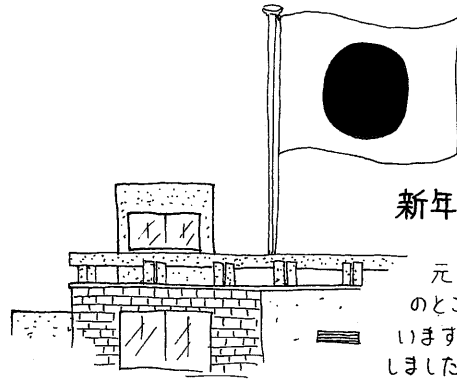


ウメの開花

博物館の前、音為川沿いに野生のウメがあります。

このウメは早咲きで、寒さ知らずのウメです。今年の咲き始めは平成4年1月4日、満開は1月31日です。

写真家もこのことを知っていてウメの写真撮っています。



新年の開館

元日はおおかたのところが休日になっていますが開館しました。

これは館長の奉仕で、多年つづいていきます。屋上で新品の国旗を初めて掲揚しました。

さようなら六本杉

この杉は本堂から山頂に何って800mほどいったところにあります。

樹齢約1,300年を数える霊木です。

平成2年、9月19日の19号台風でいためつけられてからめっきり弱ってしまったので、切ることになりました。

平成4年1月28日午後3時10分に倒されました。

栄枯盛衰の無常を悟り、別れを惜しみました。

（樹高27.4m
直径2.6m）



初雪

予告なしに突然降った感じでみんなが驚きました。鳳来寺山に住む動物たちと寒さにふるえてなりゆきを見守っていたと思います。

鳳来寺山の初雪の記録

- 昭和63年12月15日
- 平成1年12月31日
- 2年12月27日
- 3年12月29日



平成3年

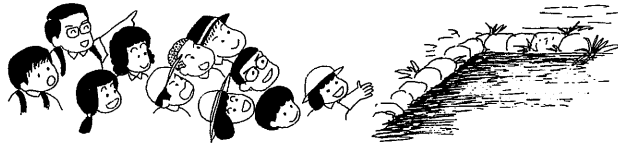
— 学習会のあしあと —

博物館だより 1992.3 No. 17

鳳来寺山の生きものを学ぶ

平成3年5月26日(日)晴(鳳来寺山)111名参加

この学習会の主役はモリアオガエル(卯塊)です。なぜ木に登って産卵するのかな…、どんなどころにかくれているのかな…、何を食べるのかな…、話題はつきません。楽しい会話が山中にひろがってきます。中日新聞で学習会のようすがカラー写真で大きく紹介されました。



きのこを学ぶ

平成3年10月13日(日)晴(鳳来寺山)118名参加



食べられるかな…、毒きのこかな… この2つだけのことで終ってしまったらつまらないと思います。きのこの勉強は1年かけてはためて、つづけることです。早く正しい知識を身につければそれだけ楽しみも増えます。学習会に参加して毒きのこの見分け方を先に覚えることが大切です。



親と子で地形と地質を学ぶ

平成3年8月4日(日)晴(設楽町・津具村)50名参加

みんなのリュックサックが重そうです。中には何か入っているのかな…ハロロクスマンが石、水晶が入っていたと思います。人から言われてではなく、自分で体感できるのが、この学習会の良いところです。

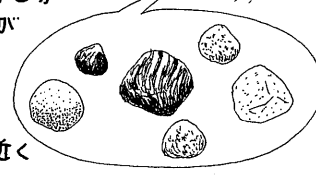


鳳来寺山の生いたちをたずねる

平成3年6月9日(日)晴(玖老瀬海老川)103名参加

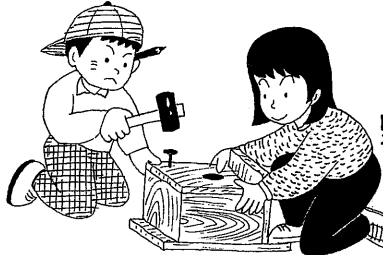
川原に集った石はまるくかどかどとれた石とかどかどとれない石が混じり合っています。これは水によって選ばれたためで、まるい石は上流から何年もかかって選ばれたものです。かどぼった石はこの近くで工事などでずられた石です。また、石の性質により、まるい石は比較的やわらかく、かどぼった石は固いのが普通です。

この地方で海の時代、火山の時代があったこと学びました。



野鳥の巣箱づくり

平成3年12月8日(日)雨のち曇り(博物館)46名



巣箱から野鳥のヒナが育ていく姿をそうぞうしながら作る…楽しいその様子。巣箱づくりと技術と工夫がいろいろとわかりました。

本には書いてありませんがこの体験は忘れられないと思います。良い思い出を残すことは、それだけ人生を豊かにするのです。

冬の鳳来寺山自然探検

平成4年2月16日(日)曇り時々小雨(鳳来寺山)59名参加



霊木六本杉が伐られました。1,300年の天寿を全うしたので。生々しい切り株のゆわりに参加者一同が集って記念写真を撮りました。六本杉は安らかに…みんなが別れを惜しみました。

虫をしらべてみよう

平成3年9月8日(日)雨のち曇り(門谷高徳)73名参加

みんなでたくさんの虫をとりました。とった虫を自分の手で調べてみないと本当のことはわかりません。虫とりのエチケット…①必要以上にとらないこと ②かんさつが終ったら自然へ逃がしてやること…を守りました。



秋の紅葉を楽しむ

平成3年11月17日(日)曇り時々晴(鳳来寺山)57名参加

博物館広場に鳳来寺山の主な木を並べました。紅葉する美しい木には関心があっても、地味な木になると関心がうすくなります。しかし、樹木の自然は美しいのと、地味なものが、かまったり助け合っていてくれるのです。雑木林が多くなればなるほど自然は豊かになることを学びました。

夏の植物を学ぶ

平成3年7月14日(日)曇のち雨 58名参加

植物標本作りで夏が一番苦勞します。その苦勞は体験しないものにはわかりません。同じ種類の植物で毎日当りの良い所と日かげでは形がちがいます。そこから環境を学ぶことが大切です。後日、忘れぬように記録を残しましょう。汗をかきながら学びました。



オオコノハズクよ 元気でくらしてネ...

平成4年5月1日、鳳来寺山へ放鳥

ニュージーランドの先生

アラン・エドモンズ博士

デビット・バトラー博士

アラン・ソングラスさん

ジョー・ナイトさん

ローラ・明・ママーさん

愛鳥指定校
鳳来寺小学校6年生
のみなさん

近藤芳子せんせい

山下陽子さん

丸山文恵さん

七原和美さん

中野有紀さん

多和田貴兄さん

竹下朋江さん

鈴木里子さん

神代美代さん

青藤朋さん

荒川友里さん

原尚紹くん

鈴木永利くん

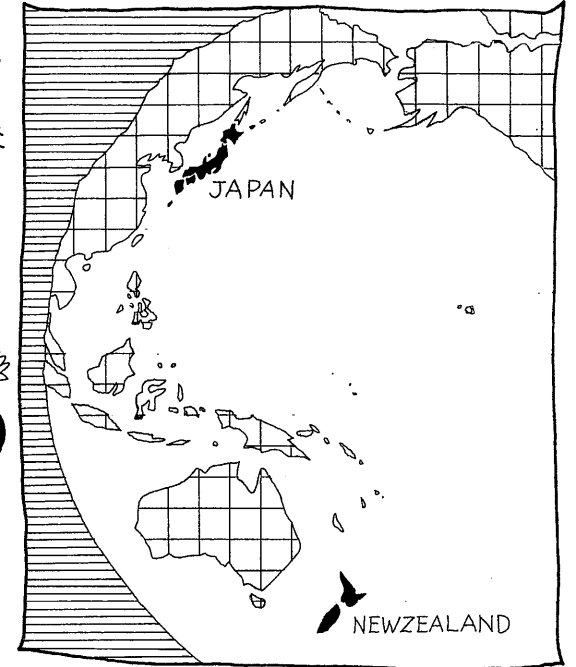
上島伸昭くん

稲垣光くん

池田和成くん

池本健介くん

渥美伸之くん



オオコノハズクの保護

平成4年1月13日

国道257号線、鳳来町と引佐町の境界

あたりで道路にうずくまっているところを見つけて保護されました。まだ寒いころのことです。

最初の発見者は澤上敬えさん(下吉田在住)です。

道路にいたのは通行中の自動車にぶつかって

ショックを受けたためと思います。

その後、博物館で「みきつつ」にて保護しました。



オオコノハズクの保護の担当者は松井館長です。

事務をしている机のそばに

飼育箱をおき

飼育しました。

健康なときは

液状の白い糞

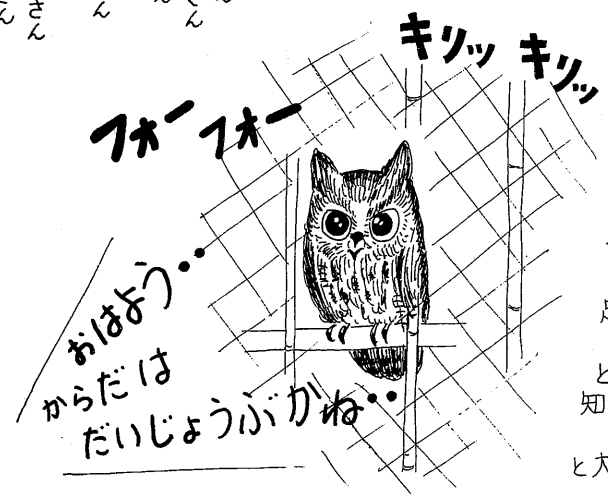
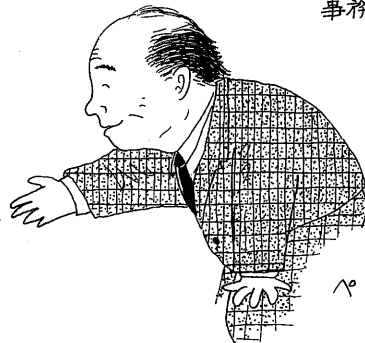
をします。

食べ物

(ミルアム)を

食べたときは

ペリットをはき出します。



オオコノハズクに向って話しかけるとフーフーと返事をしました。足をつかんで驚かすとキリッ、キリッとするとく鳴きます。知らん顔をしているとフオッ、フオッと大きな声を出しました。

はくぶつかんだより

タオンガ ホウライ

コリハズクノート



館長はコリハズクノートを
17年も記しています。

今年は鳴き声を聞いたという人が多く、
毎日電話が鳴りっぱなしです。

このようにみなさんがコリハズクについて
関心をもちてくれることはうれしいことです。



去る5月1日
鳳来寺山で
放鳥した
オオコリハズクに
ニュージーランドの
アラン・エドモンズ博士が
名前をつけ、紙に
「タオンガ」ホウライ」と
書かれました。
その意味は「鳳来の宝物」だそうです。
一羽の野鳥を宝物のように大切にしよう
という精神にみんなが感動しました。



コリハズクポスター

鳳来町のすみずみに
コリハズク(仏法僧)の
ポスターがはられて
います。

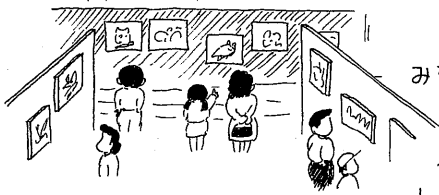
こんなことは
初めてです。

平成4年6月
6日、7日の2日間
『仏法僧シンポジウム』
が開かれます。

おあせし参加
してもらえるように
お知らせしました。



東三河の野鳥展



東三河の野鳥展

東三河野鳥同好会の
みなさんが日頃観察して
いた野鳥の写真を
撮影して博物館
館講堂で公開
しました。

東三河地方の野鳥が講堂に集合したようで
楽しい野鳥展になりました。
同好会のみなさんのご支援のおかげです...感謝、感謝。

あしたも
いっしょに
あそぶまじい



きょうは
みんながきた
むんでのしかた
のん

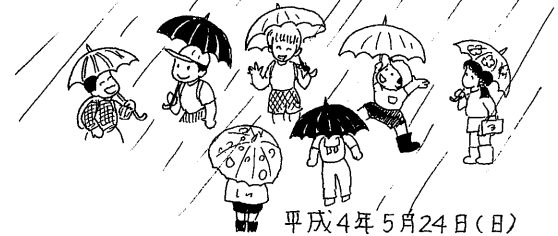


旧三輪村の方言と自然

昔から使いなれた「方言」が
なくなろうとしています。
これはまことに残念な
ことで、なんとか残したいものです。
そこで、「方言を使って会話をしよう」
運動を提案します。

館報「旧三輪村の方言と自然」を
発行したときは
町内、町外とも話題となりました。

鳳来寺山の生きものを学ぶ



平成4年5月24日(日)

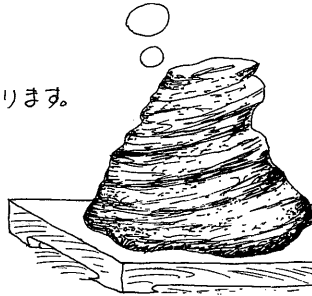
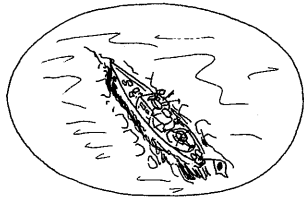
平成4年度最初の学習会です。
出席者88名。午前中は雨のため学習
室で講話、午後鳳来寺山に登山しました。
平成3年度行事で出席のどっとよか
た人の表彰も行なわれ、
参加者全員で祝福しました。

南極の石

鳳来町一色出身の川合孝永
さんが寄贈されました。

川合さんの仕事は南極
観測船「しらせ」の船中で
食事を作ることです。

郷土のために持参した
苦労を思うと頭がさかります。
大切に保管、展示します。

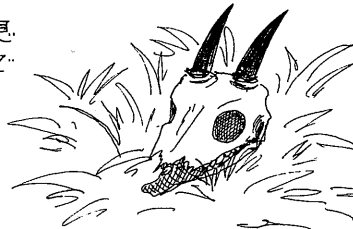


ニホンカモシカの頭骨

平成4年5月29日

鳳来町長篠の森下幸一氏が同地内でニホンカモシカ
の頭の骨を発見し、博物館にとどけて
くれました。

この地区で生息
していなかったので
貴重な標本に
なりました。



○鳳来寺山自然科学博物館○

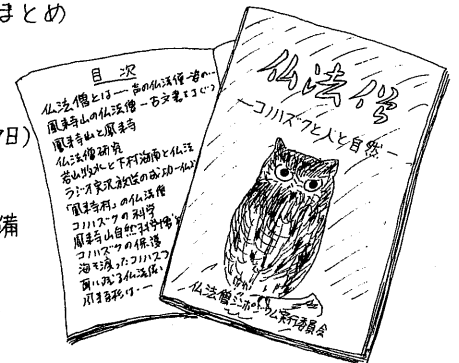
仏法僧

—コリハズクと人と自然—

全文33頁(B5)のカラー
の小冊子ですが仏法僧の
ことがよく整理されてまとめ
てあります。

仏法僧の資料としては
これが最初です。
シンポジウム(6月6日-7日)
参加者には全員に配布
します。

仏法僧(コリハズク)の予備
知識を得るために、ぜひ
購読をおすすめします。



博物館の記録—地方の話題

はぴつかんだより 1992.7 No.20



コハズク鳴く

豊田市の津島神社の森でコハズクが毎晩のように鳴きました。昼間鳴くこともあったようです。

平成4年5月26日から7月6日まで、この地方の人は聞いています。



緑の風... 分科会

平成4年6月6日、鳳来寺山頂の宿坊で仏法僧シンポジウム第1分科会が



おこなわれました。講師には全国から仏法僧(コハズク)の研究者が集まりました。仏法僧(コハズク)の名前は知っていても、生態のことは人たちはわかりません。みんな大変よい勉強になったと思います。緑の風が入ってきてムードは高まりました。

歴史を残した仏法僧

平成4年6月6・7日 開催された仏法僧シンポジウムの出席者に配られました。内容は、『仏法僧とは... 古文書をさぐる、鳳来寺山と鳳来寺、梅村甚太郎の業績、若山牧水と下村海南と仏法僧、ラジオ実況放送の成功、鳳来寺村の仏法僧、コハズクの科学、博物館の活動、コハズクの保護、海を渡ったコハズク、耳に残る鳴き声、など』です。編集者は館長です。郷土の自然史にあしあとを残しました。



困ったなあ...

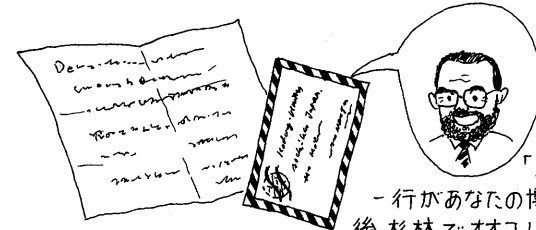
モリアオガエルは小雨が降る夜に産卵するのが普通です。

6月8日の朝、産卵を始めかけたとき、雨がやみ、晴れてしまいました。

産卵できないモリアオガエルは丸くかたまりになり木にぶらさがったままで。このような観察は、はじめてです。



アラン・エドモンズ博士の手紙



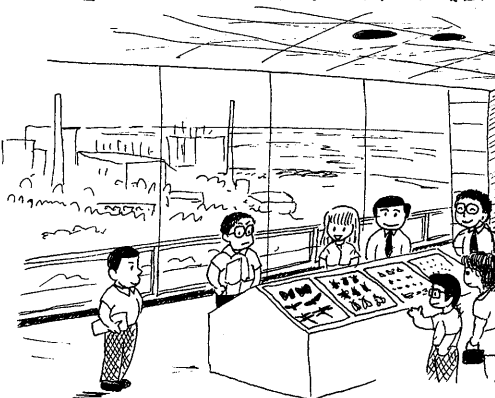
平成3年6月10日、ニュージーランドのアラン・エドモンズ博士から館長に手紙がきました。それを読むと

「親愛なる松井様、私達一行があなたの博物館を先日訪問し、その後杉林でオオコハズクを放鳥した経験は訪日の出来事の高ライトでした。その中でなんといいると、私にとって最も印象深かったのは、私達がタロンガ・ホーライ(鳳来の宝)と名付けたコハズクの放鳥と一緒に参加させていただけたことです。あの放鳥に学童達(鳳来寺小生徒)が参加したことは良いことでした。あの子供達は、毎日の生活を、あの場面のことを胸にいだいて送るようになります。私は強く信じています。自然や野生生物に畏敬の念を抱くよう若者達を教育するのは、とて大切なことで、コハズクの放鳥とその報道は、確実にその助けとなるでしょう。」と書かれていました。

浜岡町の虫

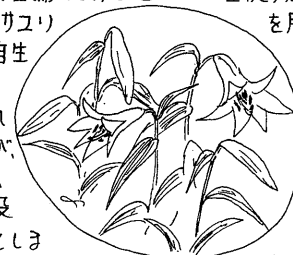
博物館協会で浜岡原子力発電所を見学しました。「確かに安全か？」体験する良い機会でした。

発電所内には昆虫類の展示があり、安全を証明していました。放射線がそれら一番弱い虫たちが先に死んでしまうと思います。



消えたササユリ

作手村白鳥にみごとなササユリの自生地が保護されていましたが、シカ、イノシシ、ウサギが出没して全滅してしまいました。野生動物による被害は大きく、ほってはおけない自然問題です。



テレビ放映—主役は丸山憲和くん(鳳来中学3年)

平成4年8月14日(金)テレビ愛知「あなたと愛知」の番組の中で友の会の丸山憲和君が放送されます。(午後2時~2時15分) 友の会員になり、学習会に参加して自然の勉強をしてきたことがみとめられたのです。

